「関西のインフラ強化を進める会」開催報告

(一社)近畿建設協会

近畿建設協会では、公益事業の一環として第6回委員会「関西のインフラ強化を進める会」を12月12日 に開催しました。

今回は、(一社)せとうち観光推進機構 CMO 村木智裕氏、神戸大学大学院 経営学研究科 教授 正司健一氏による基調説明のほか、建設コンサルタンツ協会より、高速バスターミナルのあり方等について中間報告プロジェクトの具体化に向けた説明を行いました。

委員名簿

(委員長) 小林潔司 京都大学経営管理大学院 教授

井戸智樹 歴史街道推進協議会 ネットワーク推進部長

上村多恵子 京南倉庫(株)社長 小河保之 (株)URリンゲージ 参与 長田信 近畿地方整備局副局長 神田彰 関西経済連合会 理事

木谷信之 阪神高速道路(株) 取締役兼執行役員

黒川純一良 近畿地方整備局 局長

佐藤道彦 堺市 副市長

鹿間孝一 産経新聞 論説委員

清水喜代志 JR西日本 建設工事部 技術顧問

正司健一 神戸大学 教授 竹内廣行 大阪府 副知事

多田稔子 田辺市熊野ツーリズムビューロー会長

前川秀和 西日本高速道路(株) 代表取締役兼副社長執行役員

八木一夫 近畿運輸局長

藤本貴也 JAPIC国土・未来プロジェクト研究会 委員長 村上元伸 関西広域連合 本部事務局 事務局長

若林陽介 三菱自動車工業(株)管理本部 本部補佐長

(事務局) 霜上民生 近畿建設協会 理事長

(事務局) 兼塚卓也 建設コンサルタンツ協会 近畿支部長

第7回委員会「関西のインフラ強化を進めるために」

日時: 2019年4月23日(火) 17:00~ 場所: ホテルプリムローズ大阪

議事次第

・せとうちDMOが展開する

広域デスティネーションマーケティング (一社)せとうち観光推進機構 CMO 村木智裕 氏

- ・基盤整備とPFI/PPP その考え方と活用について 神戸大学大学院 経営学研究科 教授 正司健一 氏
- ・意見交換会
- ・中間報告プロジェクトの具体化に向けて
 - *関西の高速バスターミナルのあり方(案)
 - *西日本の新たな国土軸『南海経済軸』のあり方(案)







奈良に高速バスターミナルを

関西のインフラ強化を進める会第6回会合

ン協近畿が在り方案中間報告

ズ大阪で第6回会合を開い 大阪市中央区のプリムロー 都大学大学院教授)は12日、 四のインフラ強化を進める 中央リニア交通結節点(バスタ奈良) (委員長・小林潔司京 (商業施設、会議場、オフィス、ホテル等)

議論を深めたほか、 とPPP・PFIについて た―写真。 瀬戸内海の観光

建設コ

した。

引き続き、

神戸大学大学

活動や防災・減災対策、観識者ら関西の産学官で経済 光振興に欠かせないインフ 経済界、学 部が関西の明日を創造する ついての中間報告を発表。 ターミナルの在り方(案)に 唱している関西の高速バス 見を交わした。 用について」を説明して意 教授が「基盤整備とPFI 院経営学研究科の正司健一

P P P

その考え方と活

プロジェクト2050で提

この後、

建コン協近畿支

国や自治体、

各地に行っているプロモー 進する取り組みを紹介し、 全体の観光ブランド化を推 て説明し、 かだ」として、 ちにどのようにきてもらう からの取り組みなどについ トの現状やその効果、これ いて無認知、無関心の方た 「瀬戸内海の周辺地域につ に講演。 が合同して瀬戸内 瀬戸内を囲む7県 委員と意見交換 ヨーロッパ

どを行った。 せとうち観光推進 ジェクト205 日を創造するプロ 支部が「関西の明 〇」の中間報告な ンサルタンツ協会 (建コン協) 近畿 会議ではまず、 これまで発表していた大阪 駅と新大阪駅のバスターミ 続する地点に建設すると仮 通後の京奈和自動車道に接 露した。リニア奈良駅が開 ニア奈良駅の整備イメージ 新幹線が開業した場合のリ ナルに加えて、 ースを独自に作成して披

バスタ奈良の整備イメージ (建コン協近畿支部作成)

る広域デスティネ ち D M O が 展 開 す 智裕氏が「せとう 機構CMOの村木 ィング」をテーマ ションマーケテ 村木氏は じめ、 定し、 能の多様化への対応などが 組み合わせた観光や交通機 的な新たなまちづくりを提 ホテルなどを建設して複合 必要だと訴えた。 さらに、 高速鉄道と高速バスを 商業施設や会議場、 バスターミナルをは

必要だと提唱。近畿・九州 間の移動を1時間圏域にす一る」と締めくくった。 パーメガリージョン構想が の連携には西日本版のスー り方(案)も示し、 国土軸「南海経済軸」の在 西日本の新たな 西日本 まった今、

リニア中央 各国からヒト・モノ・ ミニアース構想により世界 経済軸の中心である四国を ることで、 化させることなどを提案し を受け入れ、優先的に活性 の都市圏域が誕生するとし 四国については、 世界ランク6位 カネ

るか早急な対応が求められ 対応していかなければなら は、観光産業の動くスパン 延伸が決まっており、 ニアについては大阪までの 光産業をどのように誘致す をどのように考えるか、 ない。大阪万博の開催が決 が必要かを考える時間が少 までにどのようなインフラ が早いため、待ったなしで しはあるが、 最後に小林委員長が「リ つに考えるか、観万博までの導線 観光について